

## タイガー魔法瓶が本社を置く「大阪府門真市」と連携し、海洋ごみ削減へ マイボトルの普及と 使用済みステンレス製ボトルの再資源化に関する協定を締結

熱制御テクノロジーで世界をリードするタイガー魔法瓶株式会社(社長:菊池嘉聡、本社:大阪府門真市)は、本日1月17日に大阪府門真市と「マイボトルの普及及び使用済みステンレス製ボトルの再資源化の促進に関する協定」を締結しました。

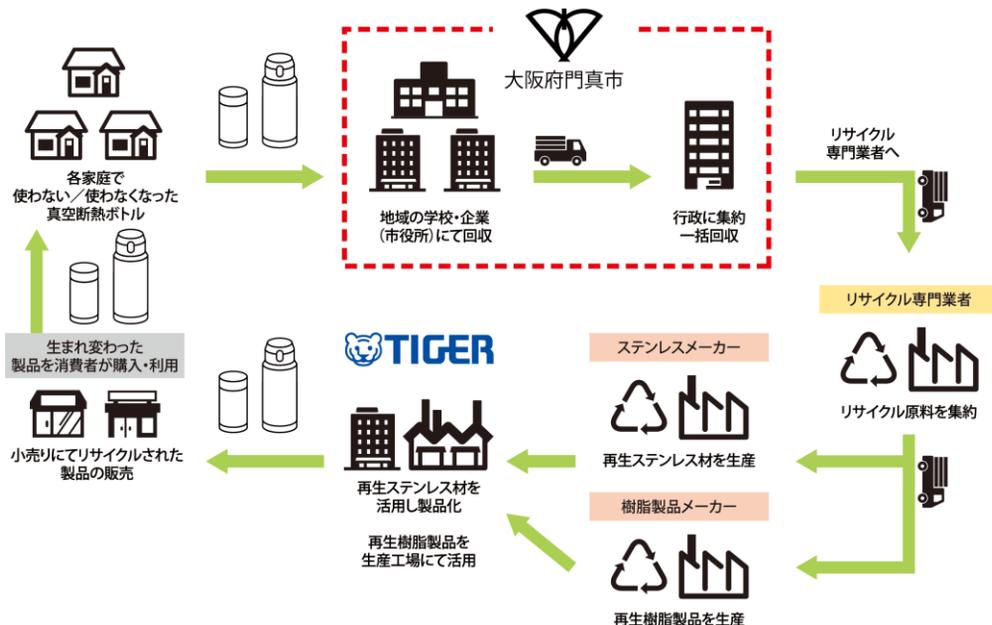
当社は持続可能な社会の実現のために、ステンレス製ボトルのメーカーとして「循環型モノづくり」が責務と考え、タイガー製品のみならず、広く使用済みステンレス製ボトルの受け入れ、再資源化の取り組みを行っています。  
この度、大阪府門真市が、海洋ごみの回収・発生抑制の実効性を高めるため、環境省が自治体と企業等の連携による自走性のある取組の実証を支援する「令和4年度 ローカル・ブルー・オーシャン・ビジョン推進事業」の実施自治体へ選出されたことを背景に、当社は連携企業として、市内でのマイボトルの普及、および、使用済みステンレス製ボトルの回収を通して、市民の行動変容につながる取り組みを推進します。

当社は今後も取り組みに賛同いただける自治体や企業と協業し、多くの方にステンレス製ボトルの再資源化にご参加いただくことにより、サーキュラーエコノミーアクションを推進し持続可能な社会の実現に寄与してまいります。

### 使用済みステンレス製ボトル（ステンレス材、および樹脂部材）の再資源化モデルについて

ご家庭で不要になったステンレス製ボトルを地域の学校・企業・市役所にて回収し、リサイクル専門業者へ集約。集まったリサイクル原料から再生ステンレス材および再生樹脂製品を生産します。再生ステンレス材は新たな製品へと生まれ変わり再びお客様の元へ、再生樹脂製品は当社の各生産工場にて活用するといった再資源化モデルを構築しています。  
モノを消費・使い捨てるのではなく、再資源化することで、環境負荷低減と持続可能な経済成長を両立させるサーキュラーエコノミー（循環型経済）の実現を目指します。

#### <再資源化モデル イメージ図>



※回収のご注意：プラスチックやアルミのボトル、ステンレス製ボトル付属のポーチは回収できません。ふたはつけたまま、ボトルはよく洗って水気を切ってお持ちください。  
※再生ステンレス材を利用した製品は、ステンレス製ボトルのみとは限りません。

<貢献する主なSDGs（持続可能な開発目標）>



## 大阪府門真市と「マイボトルの普及及び使用済みステンレス製ボトルの再資源化の促進に関する協定」を締結

大阪府門真市（市長：宮本一孝）と当社は、マイボトルの普及と使用済みステンレス製ボトルの回収と再資源化の取り組みを含む「マイボトルの普及及び使用済みステンレス製ボトルの再資源化の促進に関する協定」を2023年1月17日に締結いたしました。

門真市は、市内河川のごみ問題を課題とし、2022年6月、環境省が主催する国内における海洋ごみ対策の一層の推進を図ることを目的とした「令和4年度 ローカル・ブルー・オーシャン・ビジョン推進事業」に応募をし、実施自治体として選出されました。当社と同じく門真市に本社を置くパナソニックホールディングス株式会社、リサイクル・リユース事業を行うリネットジャパングループ株式会社、そして当社の3社と門真市が連携し、プラスチックごみ削減を目指します。

当社とは、市内でのマイボトルの普及、および、使用済みステンレス製ボトルの回収を通して、市民の行動変容につながる取り組みを推進します。

ローカル・ブルー・オーシャン・ビジョン推進事業とは：

環境省が、自治体と企業等が連携した海洋ごみの回収・発生抑制対策等を実効性の高い、持続可能な取組とするため、モデル事業を実施する自治体を募集。自治体と企業等の連携による海洋ごみ対策に対して、事業プランの作成、連携体制の構築、効果・課題の検証等のサポートを行います。2022年6月に発表された令和4年度の実施自治体には、大阪府・広島県・和歌山市・門真市が選出されました。

### 協定概要

■ 締結日 2023年1月17日（火）

■ 当社が進めるSDGsに向けた取り組みや行動

○ 産官学民連携による新たなライフスタイルの実現

- ・ 真空断熱ボトルを通じた新たなライフスタイルの実現
- ・ 行政との共創による使用済みステンレス製ボトル（ステンレス材、及び樹脂素材）の再資源化モデルの構築
- ・ 小中高校、大学生に対するエシカル教育/環境教育の支援
- ・ マイボトル普及に向けた意識啓発

○ 循環型ビジネスにおけるリーダーシップ、および、他地域への横展開や情報発信

○ 本取り組みから得られるマーケティングデータを活用した新規事業やサービスの創出



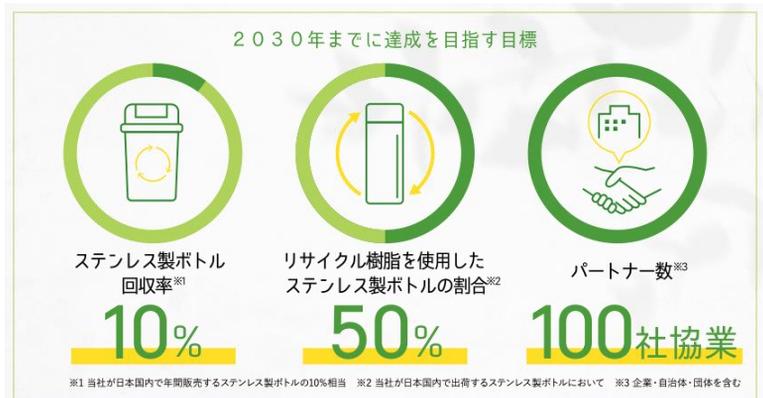
### 参考情報：タイガー魔法瓶が2030年までに達成を目指す目標

<https://www.tiger-corporation.com/ja/jpn/feature/sdgs/>

ステンレス製ボトルのサーキュラーエコノミー（循環型経済）のアクションにおいて、2030年までに使用済みステンレス製ボトルの回収率10%（※1）、リサイクル樹脂を使用したステンレス製ボトルの割合50%（※2）、パートナー100社（企業・自治体・団体含む）との協業を目標に設定しています。

※1 当社が日本国内で年間販売するステンレス製ボトルの10%相当

※2 当社が日本国内で出荷するステンレス製ボトルにおいて



参考情報：タイガー真空断熱ボトル（ステンレス製ボトル）の4つの約束

<https://www.tiger-corporation.com/ja/jpn/about-us/sustainability/>



1. NO・紛争鉱物

紛争の資金源になっている鉱物資源を使いません。  
人の苦しみで作られた原材料は、どんなに安価であったとしても使用しません。  
「持続可能型社会の推進には、人権配慮があつてこそ」と私たちは考えます。

※紛争鉱物：コンゴ民主共和国及び周辺9ヶ国で採掘されるスズ、タンタル、タングステン、金の4つの鉱物資源



2. NO・フッ素コート

数千種類ある有機フッ素化合物の中には、以前は使用を認められていながら、今は国際条約で使用が禁止されているものがあります。  
環境・健康の両面への影響を考え、私たちは、フッ素コートを全真空断熱ボトルに使わず、高度な研磨技術で同等の防染性能を実現しています。



3. NO・丸投げ生産

お客様の健康を守り品質を担保するため、コストをいとわず、私たちは、年間約800万本のボトルを3つの自社工場※で生産しています。  
生産・品質管理等、タイガー独自の厳しい基準に則り、社員が厳格に管理をしています。

※タイガー魔法瓶の生産拠点として、日本・中国・ベトナムにそれぞれ自社工場を保有しています。  
(生産本数は2018年度実績)

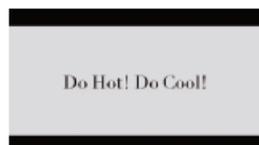


4. NO・プラスチックごみ

プラスチックからの脱却が世界的な潮流になっている中、世界で年間約5800億本※消費されるペットボトルは、最も身近なプラスチック製品です。私たちはマイボトルの普及を通じて、プラスチックごみ削減に寄与します。

※2021年時点（自社調べ）

タイガー魔法瓶 NEXT100年ステートメントムービー「Do Hot! Do Cool!」公開中!



Do Hot! Do Cool!

タイガー魔法瓶は2023年に創立100周年を迎えます。  
創立以来、「真空断熱技術」と「熱コントロール技術」を用いた、  
高次元の熱制御にこだわり続けてきました。  
次の100年も変わらずこの技術を活かして、  
「世界中に幸せな団らんを広める。」ことを実現してまいります。



「Do Hot! Do Cool!」100年を、あたたかく。100年を、カッコよく。 [https://youtu.be/MQe\\_G1aveuM](https://youtu.be/MQe_G1aveuM)